

計測制御分野で最新のシステムを提供する

ハビリス納入事例紹介

高炉炉底温度監視システム

最近、自動車業界やプラント関連の増産機運に対応すべく、鉄鋼各社が高炉の改修を行なっております。その主な内容は炉径の増加工事や長寿命化が中心になっています。

当事例はこの様な炉底関連の改修の結果を監視する目的で使用されており、「ウエーブリサーチャー」と横河電機㈱のデータアキュジションシステム「MX100」を使用して、炉底の各種データ（溶銑温度、送風量、レンガ温度等）を計測・演算した結果により解析を行ないます。

(1)システム概要



高炉

制御盤

横河電機製MX100
データアキュジションシステム

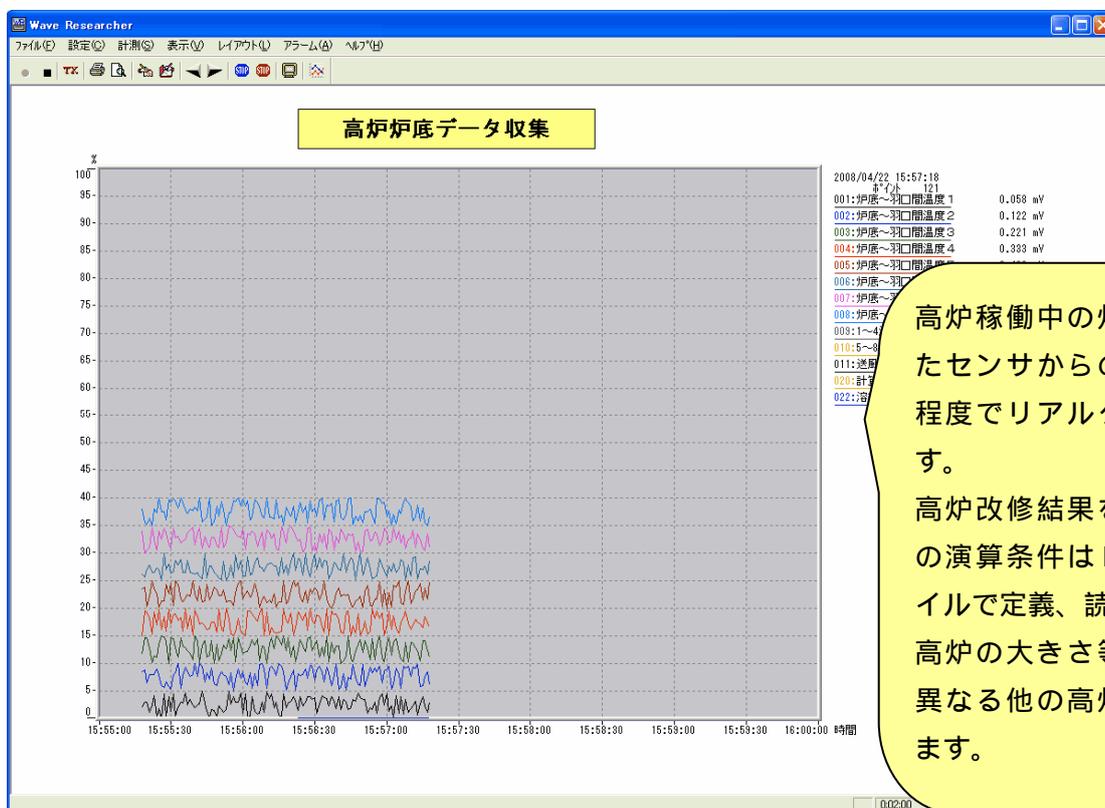
MX100で高炉の炉底関連のデータをリアルタイムに計測し、改修結果を解析します。

「システムの概要」

- (1)当システムは、製鉄所の高炉改修後のデータ収集を目的としており、炉底に設置された各種センサからのデータを「M X 1 0 0」からリアルタイムに測定し、改修結果の解析に役立つ情報を提供します。この様に「ウエープリサーチャー」は横河電機㈱製のデータアキュジション機器と組み合わせて製鉄所関連のデータ計測や監視に数多く使用されており、当システムも複数の製鉄所で稼動しております。
- (2)主な処理内容と「ウエープリサーチャー」の改造点について

炉底のデータ収集に関しては「ウエープリサーチャー」の基本機能でデータ収集、画面表示を行います。主な改造点は収集したデータにより改修結果のための演算処理を行なう際に必要になる、各種パラメータや判定条件等をE X C E Lファイルから読み込んでリアルタイムに演算を行い、結果をトレンドグラフ表示したり、データ保存する機能を追加したことです。使用する高炉や改修条件によりこれらの解析パラメータが変わるため、E X C E Lから演算条件を入力できるこの機能は大変便利です。

(画面表示例)



高炉稼働中の炉底に設置されたセンサからのデータを1秒程度でリアルタイム収集します。

高炉改修結果を解析するための演算条件はE X C E Lファイルで定義、読み込めるので、高炉の大きさ等の演算条件が異なる他の高炉でも使用できます。

「ウエープリサーチャー」採用のメリット：

E X C E Lから演算条件を読み込めるようにしたので、1度のソフト改造で高炉の規模や改修条件が異なる他の高炉でも流用でき、トータルコストを削減できた。

パソコンの操作経験のない現場の方でも簡単に使用できる点が「ウエープリサーチャー」の最大のメリットである。

お問い合わせ先

株式会社ハピリス システム営業部

URL . <http://www.habilis.co.jp>

〒108-0014 東京都港区芝4 - 7 - 1 西山ビル

Tel : 03-3769-6291 Fax : 03-3769-6285